

⑨ 日本国特許庁 (JP) ⑩ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭59—97678

⑪ Int. Cl.³
A 62 B 18/02
B 03 C 3/14

識別記号 庁内整理番号
6901—2E
Z 7636—4D

⑬ 公開 昭和59年(1984)6月5日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 2 頁)

⑭ 防煙マスク

東京都練馬区春日町1の37の7
第2みどり荘

⑮ 特 願 昭57—208260

⑯ 出 願 人 塩田真三

⑰ 出 願 昭57(1982)11月27日

東京都練馬区春日町1の37の7
第2みどり荘

⑱ 発 明 者 塩田真三

明 記 書

1. 発明の名称

防煙マスク

2. 特許請求の範囲

半導体1による高周波高圧発生回路を電極2を電極として作動させ、その二次側出力を整流子5、5'、6コンデンサー4、4'、4'により、低々電圧整流せる直流高圧を電極6、6'に接続し、その間を防煙フィルター8で絶縁を兼ね、両端をアクリル樹脂による密閉要素を多く含む繊維状活性剤フィルター7にてサンドイッチせる、電気的、機械的強じん部とさらにガスの吸着剤12とを、マスク9内にセットしてなる防煙マスク。

3. 発明の詳細な説明

火災発生のおきにもつともおそろしいのは、煙、一酸化炭素中毒と酸素の欠乏である。

しかし火災も早期であれば致命的な酸素欠乏の心配はあまりない。それよりもまず、鼻じん、一酸化炭素を食んだ煙を吸い込むことで、呼吸困難から窒息する割合が多い。

その事が脱出のチャンスをついて死を招くことになる。

本発明のものは脱出に必要な20〜30分の間を緊急避難することを目的とする防煙マスクである。

次いで図によつてその作用と効果を説明する。

従来のフィルターのみでは煙を除煙させる事は無効でこれに対し本発明のものは、電気的強じんと特殊フィルターを組合せることにより、その効果を上げるようにしたものである。

第1図に示すものは半導体1による高圧発生回路で、電極2を電極として作動するもので、トランス3の二次側に高周波高圧を発生する。

この高圧をコンデンサー4、4'、4'及び整流子5、5'、5'による低々電圧整流をして直流高圧を取り出す。

このプラス高圧を電極6に、アース側を6'に接続し、その電極間を絶縁を兼ねて防煙フィルター8を使用する。

この両端にアクリル樹脂による密閉要素を多く含む繊維状活性剤フィルター7を使用したものである。

この特殊フィルターと電極間を煙が通過すれば、フィルターと電気的強じん効果により通過後は煙が除去されるものである。

このフィルターと電極13をマスク9内にセットし、さらに一酸化炭素等を除去する目的でガス吸着剤12をマスク9の10にセットする。

11は電極の電極2の部分である。

このマスク9はあくまでも30分以内の緊急避難を目的とするものであるが、火災以外に作図用としても使用可能である。

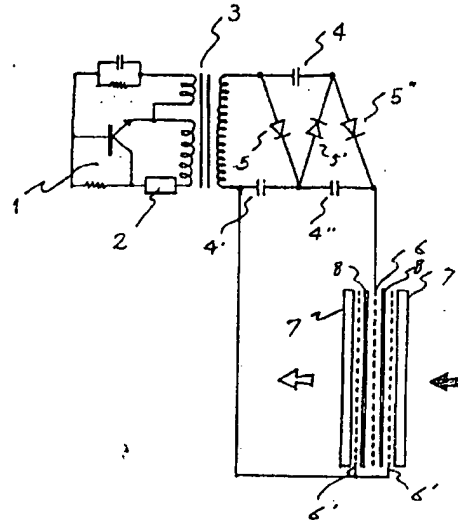
4. 図面の簡単な説明

特開昭 59- 97678 (2)

図は本発明の装置例を示すもので、第1図はその回路例、第2図はマスク図である。

1は半導体部 2は電池 3は高圧トランス 4・4'・4''はコンデンサー 5・5'・5''は整流子 6・6'・6''は脱気極 7は脱臭フィルター 8は脱臭フィルター 9はマスク 10は吸入部 11は電池部 12はガス吸着剤 13はフィルターと電池の組合せた部分。

第1図



特許出願人

塩田 真

第2図

